

2025年8月29日(金)

専門領域別企画 | 専門領域別：介護予防・健康づくり

■ 2025年8月29日(金) 13:00～14:00 皿 3201教室(教育研究棟 3街区 2階 3201)

[3a1111-11] 介護予防・健康づくり／キーノートレクチャー／85歳以上人口が増える社会における“予防”の取り組み方と将来像を考える

司会:檜垣 靖樹(福岡大学)

[14介-KL-1]

85歳以上人口が増える社会における“予防”の取り組み方と将来像を考える

*田邊 解¹ (1. 筑波大学)

専門領域別企画 | 専門領域別：測定評価

■ 2025年8月29日(金) 9:00～10:00 皿 2301教室(教育研究棟 2街区 3階 2301)

[3a1801-01] 測定評価／キーノートレクチャー／体力や運動・スポーツ実施に関する公的調査とその利活用

司会:鈴木 宏哉(順天堂大学)、城所 哲宏(日本体育大学)

[08測-KL-1]

体力や運動・スポーツ実施に関する公的調査とその利活用

*中山 正剛¹ (1. スポーツ庁)

専門領域別企画 | 専門領域別：コーチング学

■ 2025年8月29日(金) 11:00～12:00 皿 1202教室(教育研究棟 1街区 2階 1202)

[3a401-01] コーチング学／キーノートレクチャー／比較競技論の意義と今後の課題

司会:森丘 保典(日本大学)

[09コ-KL-1]

比較競技論の意義と今後の課題

*青山 清英¹ (1. 日本大学)

専門領域別企画 | 専門領域別：体育心理学

■ 2025年8月29日(金) 13:15～14:15 皿 1202教室(教育研究棟 1街区 2階 1202)

[3a402-02] 体育心理学／キーノートレクチャー2／運動部活動における適応と暴力ー心理社会的アプローチと実践の方向性ー

司会:土屋 裕睦(大阪体育大学)

[03心-KL-2]

運動部活動における適応と暴力
心理社会的アプローチと実践の方向性

*波倉 崇行¹ (1. 桐蔭横浜大学大学院)

専門領域別企画 | 専門領域別：体育・スポーツ政策

📅 2025年8月29日(金) 10:10 ~ 11:10 🏢 2205教室(教育研究棟 2街区 2階 2205)

[3a601-01] 体育・スポーツ政策／キーノートレクチャー／国民スポーツ大会の課題と今日的役割にむけた改革の方向性

司会:日比野 幹生(日本体育大学)

[15政-KL-1]

国民スポーツ大会の課題と今日的役割にむけた改革の方向性

*高橋 義雄¹ (1. 早稲田大学)

専門領域別企画 | 専門領域別：保健

📅 2025年8月29日(金) 11:00 ~ 12:00 🏢 2203教室(教育研究棟 2街区 2階 2203)

[3a901-01] 保健／キーノートレクチャー／日本型の包括的性教育の展望

司会:岩井 浩一(茨城県立医療大学)

[10保-KL-1]

日本型の包括的性教育の展望

*野津 有司¹ (1. 全国性教育研究団体連絡協議会（全性連）)

専門領域別企画 | 専門領域別：介護予防・健康づくり

📅 2025年8月29日(金) 13:00 ~ 14:00 📍 3201教室(教育研究棟 3街区 2階 3201)

[3a1111-11] 介護予防・健康づくり／キーノートレクチャー／85歳以上人口が増える社会における“予防”の取り組み方と将来像を考える

司会: 檜垣 靖樹(福岡大学)

[14介-KL-1]

85歳以上人口が増える社会における“予防”の取り組み方と将来像を考える

*田邊 解¹ (1. 筑波大学)

専門領域別企画 | 専門領域別：介護予防・健康づくり

📅 2025年8月29日(金) 13:00 ~ 14:00 📍 3201教室(教育研究棟 3街区 2階 3201)

[3a1111-11] 介護予防・健康づくり／キーノートレクチャー／85歳以上人口が増える社会における“予防”の取り組み方と将来像を考える

司会: 檜垣 靖樹(福岡大学)

[14介-KL-1] 85歳以上人口が増える社会における“予防”の取り組み方と将来像を考える

*田邊 解¹ (1. 筑波大学)

＜演者略歴＞

1998年3月成蹊大学工学部工業化学科卒業。筑波大学大学院体育科学研究科博士課程修了（博士（体育科学）取得）。筑波大学大学院人間総合科学研究科研究員及び同大学体育系研究員、駒沢女子大学人間健康学部健康栄養学科准教授を経て、2021年4月より筑波大学体育系准教授。専門は健康科学、運動生理学。

2040年まで85歳以上人口割合の高どまりが推計される中、“予防”に対する価値観や取り組み方の変容が求められている。従来の高齢者支援に加え、高齢の親をケアする子ども世代への支援も不可欠となる。特に働きながら親のケアをする「ビジネスケアラー」が増加することが想定され、労働力不足に悩む企業においても生産性低下を防ぐ観点から対応が急務である。また、親世代においても、自律的な予防行動やヘルスリテラシー向上を通じた健康寿命の延伸が推奨される。

内閣府SIP包摂的コミュニティプラットフォームの構築における「高齢者と遠隔家族をつなぐデジタル同居サービスの開発」では、当事者である親子に向けた健康行動支援アプリの開発が進められており、ICTやAIの活用により高齢者の行動評価、外出・交流・社会参加の促進支援が期待される。本演題では、85歳以上人口が増加する社会における持続可能な予防支援のあり方と将来像を議論したい。

専門領域別企画 | 専門領域別：測定評価

📅 2025年8月29日(金) 9:00 ~ 10:00 📍 2301教室(教育研究棟 2街区 3階 2301)

[3a1801-01] 測定評価／キーノートレクチャー／体力や運動・スポーツ実施に関する公的調査とその利活用

司会:鈴木 宏哉(順天堂大学)、城所 哲宏(日本体育大学)

[08測-KL-1]

体力や運動・スポーツ実施に関する公的調査とその利活用

*中山 正剛¹ (1. スポーツ庁)

専門領域別企画 | 専門領域別：測定評価

■ 2025年8月29日(金) 9:00 ~ 10:00 ■ 2301教室(教育研究棟 2街区 3階 2301)

[3a1801-01] 測定評価／キーノートレクチャー／体力や運動・スポーツ実施に関する公的調査とその利活用

司会:鈴木 宏哉(順天堂大学)、城所 哲宏(日本体育大学)

[08測-KL-1] 体力や運動・スポーツ実施に関する公的調査とその利活用*中山 正剛¹ (1. スポーツ庁)

< 演者略歴 >

福岡大学スポーツ科学部助手、別府大学短期大学部准教授等を経て令和4年度より現職。EBPM推進のための調査・研究事業の専門職として採用。総合研究事業、体力・運動能力調査、スポーツの実施状況等に関する世論調査、女性スポーツ等を担当。令和5年より九州大学大学院人間環境学研究院学術協力研究員を兼任。

2007年の統計法全面改正によって、公的統計は「行政のための統計」から「社会の情報基盤としての統計」に転換し、そのことで統計データの研究への利活用が促進されることとなった。しかしながら、体育・スポーツの研究者らが公的統計を二次利用した事例は多くない（中潟ら、運動疫学研究 早期公開）。他方で、エピソードベースからエビデンスベースの政策立案の推進が強調されるようになって久しいが、行政担当者はどのように公的統計を政策立案や基本計画の策定に生かしているのかはあまり知られていない。

例えば、スポーツ庁健康スポーツ課が担当する統計調査に「体力・運動能力調査」や「スポーツの実施状況等に関する世論調査」などがある。前者は利用申請を行うことで調査票情報（ローデータ）を利用することができるし、後者に至っては、申請無しにスポーツ庁のホームページからローデータをダウンロードして自由に利用することができる。演者はスポーツ庁健康スポーツ課専門職として、統計調査の実施・公表に従事している。そういった立場から、担当する統計調査の概要、政策立案への影響、データ利活用の実態などについて講演していただく。また、司会からも研究者として体力・運動能力調査データを研究利用した実例を紹介したい。

専門領域別企画 | 専門領域別：コーチング学

📅 2025年8月29日(金) 11:00 ~ 12:00 📍 1202教室(教育研究棟 1街区 2階 1202)

[3a401-01] コーチング学／キーノートレクチャー／比較競技論の意義と今後の課題

司会:森丘 保典(日本大学)

[09コ-KL-1]

比較競技論の意義と今後の課題

*青山 清英¹ (1. 日本大学)

専門領域別企画 | 専門領域別：コーチング学

📅 2025年8月29日(金) 11:00 ~ 12:00 📍 1202教室(教育研究棟 1街区 2階 1202)

[3a401-01] コーチング学／キーノートレクチャー／比較競技論の意義と今後の課題

司会:森丘 保典(日本大学)

[09コ-KL-1] 比較競技論の意義と今後の課題*青山 清英¹ (1. 日本大学)

<演者略歴>

- ・2011年 日本大学 教授
- ・社会的活動 2025年 日本コーチング学会会長、2023年 日本陸上競技学会副会長、2002・2011年 日本オリンピック委員会強化スタッフ等を歴任

現代においては、さまざまな種目が誕生し、多様化する中で種目間での「共通言語」で可能にするための「理論的枠組み」が求められるようになってきた。そのような状況下、日本コーチング学会は「トレーニング（練習）と指導に関する一般理論」として「一般コーチング学」を体系化し、その成果を2017年に叢書『コーチング学への招待』として上梓している。個別種目のコーチング学と一般理論としての一般コーチング学は、相補的な関係にありながら発展してきた。しかし、一方では個別種目の理論の「蛸壺化」が進み、一般コーチング学の広がりが見られないといった問題点がある。そこで両者を架橋する類型別コーチング学という考え方が生まれてきた。

類型別コーチング学では、競技スポーツの勝敗を決定する方法の違いに基づいて、①測定スポーツ、②評定スポーツ、③判定スポーツの三領域に競技スポーツを分類している（金子、2005）。この三領域ごとに当該領域に位置づけられる種目間での「比較競技論」を発展させることができれば、個別理論と一般理論を架橋し、両理論の乖離を解消することが可能となる（金子、2015）。今回のキーノートレクチャーでは、コーチング学の学体系のなかで、このような位置づけにある「比較競技論」の意義と課題について概説する。

専門領域別企画 | 専門領域別：体育心理学

📅 2025年8月29日(金) 13:15 ~ 14:15 📍 1202教室(教育研究棟 1街区 2階 1202)

[3a402-02] 体育心理学／キーノートレクチャー2／運動部活動における適応と暴力ー心理社会的アプローチと実践の方向性ー

司会:土屋 裕睦(大阪体育大学)

[03心-KL-2]

運動部活動における適応と暴力

心理社会的アプローチと実践の方向性

*渋谷 崇行¹ (1. 桐蔭横浜大学大学院)

専門領域別企画 | 専門領域別：体育心理学

⌚ 2025年8月29日(金) 13:15 ~ 14:15 🏠 1202教室(教育研究棟 1街区 2階 1202)

[3a402-02] 体育心理学／キーノートレクチャー2／運動部活動における適応と暴力ー心理社会的アプローチと実践の方向性ー

司会:土屋 裕睦(大阪体育大学)

[03心-KL-2] 運動部活動における適応と暴力 心理社会的アプローチと実践の方向性

*渋谷 崇行¹ (1. 桐蔭横浜大学大学院)

＜演者略歴＞

名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士（後期）課程修了。博士（心理学）。新潟県立大学准教授等を経て現職。一般社団法人スポーツフォーキッズジャパン代表。日本スポーツ協会共通科目コーチデベロッパー。日本スポーツ少年団指導育成部会部会員。全日本軟式野球連盟指導部会外部委員。

生徒は運動部活動への参加を通じて、身体的・精神的・社会的な成長を遂げることが期待されている。しかし、適応のあり方によっては、こうした効果が得られないばかりか、心身の健康が脅かされる危険性もある。一方、指導者の主要な役割は、生徒が運動部活動へ適応できるよう導くことであるが、近年、指導者による暴力やハラスメントの報告は増加傾向にあり、その実態は本来の役割とは大きく乖離していることが示唆される。筆者はこれまで、運動部活動におけるライフスキルの獲得や部員のストレスマネジメントを主なテーマとして研究を行ってきた。関心の中心は、生徒が運動部活動のもたらす肯定的な効果に触れうる活動条件を見出そうとすることにあった。近年は、研究の知と実践の知とを結びつける活動に軸足を置き、指導者育成に関わる研修会の企画や実施に携わっている。

本レクチャーでは、運動部活動における適応を個人的な側面だけではなく、文化的・社会的な要因と結びついた心理社会的なプロセスと捉え、その上で、暴力がいかに存在し、正当化されてきたのかを検討したい。また、指導者育成や環境整備を通じた、暴力根絶に向けた実践の方向性についても考察を試みたい。

専門領域別企画 | 専門領域別：体育・スポーツ政策

📅 2025年8月29日(金) 10:10 ~ 11:10 📍 2205教室(教育研究棟 2街区 2階 2205)

[3a601-01] 体育・スポーツ政策／キーノートレクチャー／国民スポーツ大会の課題と今日的役割にむけた改革の方向性

司会:日比野 幹生(日本体育大学)

[15政-KL-1]

国民スポーツ大会の課題と今日的役割にむけた改革の方向性

*高橋 義雄¹ (1. 早稲田大学)

専門領域別企画 | 専門領域別：体育・スポーツ政策

■ 2025年8月29日(金) 10:10～11:10 ■ 2205教室(教育研究棟 2街区 2階 2205)

[3a601-01] 体育・スポーツ政策／キーノートレクチャー／国民スポーツ大会の課題と今日的役割にむけた改革の方向性

司会:日比野 幹生(日本体育大学)

[15政-KL-1] 国民スポーツ大会の課題と今日的役割にむけた改革の方向性*高橋 義雄¹ (1. 早稲田大学)

<演者略歴>

1968年、東京都出身。早稲田大学スポーツ科学学術院教授、スポーツ未来開拓会議委員、スポーツ庁スポーツキャリアサポートコンソーシアム会長、日本卓球協会評議員、日本女子ソフトボールリーグ機構監事、日本スポーツツーリズム推進機構監事。今後の国民スポーツ大会の在り方を考える有識者会議メンバー。筑波大学客員准教授。

日本スポーツ協会は、国体の諸問題に対する見直しや改善を図るため、平成15(2003)年3月に「新しい国民体育大会を求めて～国体改革2003～（『国体改革2003』）」を策定した。国スポの改革の流れは、全国知事会会長の村井嘉浩・宮城県知事の2024年4月の「廃止も一つの考え方だ」との発言で加速がついた。

これまでも国民スポーツ大会は、開催自治体の人的・財政的な負担が課題となってきた。2025年に開催される滋賀県では総事業費が約590億円に上る見込みとなっている（東京新聞，2024）。滋賀県の2025年予算でみれば、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催費は、国の支出金が5億3,200万円あるものの、特定財源と一般財源の総額は120億円であり、県予算総額6,462億円の1.9%を占めている。

日本スポーツ協会は、村井宮城県知事の発言をうけ、令和6（2024）年6月に「今後の国民スポーツ大会の在り方を考える有識者会議」を設置し、2035年から3巡目の大会が始まる国民スポーツ大会の在り方について、令和7（2025）年3月に提言をまとめた。

本キーノートレクチャーでは、有識者会議の議論や提言について、それぞれの背景を紹介しつつ、体育・スポーツ政策研究が担うべきテーマや方法について議論する。

専門領域別企画 | 専門領域別：保健

📅 2025年8月29日(金) 11:00 ~ 12:00 📍 2203教室(教育研究棟 2街区 2階 2203)

[3a901-01] 保健／キーノートレクチャー／日本型の包括的性教育の展望

司会:岩井 浩一(茨城県立医療大学)

[10保-KL-1]

日本型の包括的性教育の展望

*野津 有司¹ (1. 全国性教育研究団体連絡協議会 (全性連))

専門領域別企画 | 専門領域別：保健

■ 2025年8月29日(金) 11:00～12:00 ■ 2203教室(教育研究棟 2街区 2階 2203)

[3a901-01] 保健／キーノートレクチャー／日本型の包括的性教育の展望

司会:岩井 浩一(茨城県立医療大学)

[10保-KL-1] 日本型の包括的性教育の展望*野津 有司¹(1. 全国性教育研究団体連絡協議会 (全性連))

<演者略歴>

専門は健康教育学、学校保健学。博士(医学)。秋田大学教授、筑波大学教授などを経て、2020年に定年退職(筑波大学名誉教授)し、全性連理事長を拝命。2015～20年に筑波大学附属中学校長を兼務。1988～89年に米国西ワシントン大学にて研究に従事。中央教育審議会専門委員、臨時委員、厚生科学審議会専門委員等を歴任。

近年、「包括的セクシャリティ教育」への注目が国際的に高まっている。これは、人権尊重を基盤とした性教育と捉えられることが多いが、それと共に多面的な視点から性に関する健康的・社会的な課題の解決に資する能力の育成を目指すものとして解釈することが重要である。こうした性教育の考え方が提唱される背景には、性や生殖等に関する科学の急激な進歩や、国際化、情報化、人間関係の複雑化、価値観の多様化、人権や平等の意識の高まり等の社会の変化がある。

しかし、実際に包括的セクシャリティ教育を具体化して推進することは容易ではなく、国・地域によって進展がかなり限定的な状況であることが指摘されている。性教育が進んでいるとされる欧米の国・地域においても、制度面については決して十分ではなく、そのため学校現場ではほとんど実践されていないことも多く、想像以上に困難な状況にあることが国際機関等により報告されている。

我が国では、欧米諸国などに憧れるばかりでなく、まずは目の前の子供たちの実態をしっかりと見据え、日本の教育制度等の特長を踏まえて何をどう教えるかを、鳥の目と虫の目で丁寧に吟味する必要がある。